

令和5年度指定管理者制度導入施設の管理運営業務の年度評価 評価基準表

施設名	豊中市市民ホール等
所管部(局)課	都市活力部魅力文化創造課
指定管理者	JCD・日本管財・大阪共立グループ

	評価項目	評価ポイント	所管部局コメント	評価
1	基本姿勢	管理運営の基本的な考え方が、法令等をふまえ、公共の利益の増進に合致したものであるか 施設の性格、設置目的及び市の施策等を的確に把握し考慮した管理運営であったか。また、市と積極的に連携・協力し、市政運営の一翼を担っていたか	令和4年度に引き続き、令和5年度も施設の性格や設置目的に基づいて公平・公正な管理運営が継続して行われた。 市と指定管理者で毎月定例会議を行い管理運営等について意見交換し、市からの指摘や意見を現場従業員に伝達及び周知する体制を整えている。また、新しい試みとしてオンラインでの定期モニタリングを開催するなどした。	B
2	事業計画	「人材育成・ボランティア組織コーディネート事業」について、実施内容が仕様書・事業計画書に則し、創意工夫が見られるものであったか 「鑑賞事業」について、実施内容が仕様書・事業計画書に則し、創意工夫が見られるものであったか 「貸館事業」について、実施内容が仕様書・事業計画書に則し、創意工夫が見られるものであったか 「情報提供事業」について、実施内容が仕様書・事業計画書に則し、創意工夫が見られるものであったか 「相談事業」について、実施内容が仕様書・事業計画書に則し、創意工夫が見られるものであったか	人材育成・ボランティア組織コーディネート事業について、地元演奏家と市民コーディネーターの育成を目的とし、令和元年より本格始動した「とよなかATRIS ワゴン」は新たに4期生を迎え、2期生は卒業し登録アーティストとなった。年間を通して育成・普及・鑑賞型のプログラムを相互に連携させており、市内小学校11校で全91回のアウトリーチプログラムを実施したほか、市内福祉施設で出張型ワークショップを展開する社会包摂型事業「お茶の間オーケストラ」がきっかけとなり、地域の方やボランティア、介護・福祉専門職の方などの交流の場となっている地域包括支援センター管轄「とよなかオレンジカフェ等」にアーティストを派遣するなど、多岐にわたり活動の場を広げ、十分な事業成果を得ることができたと考える。また、市民アートコーディネーター育成プログラムや地域拠点形成事業として実施した「アートドア!」では、地域の中で活動する市民による文化活動への意識向上や参画の後押しとなっており、この取り組みが地域活性化へと波及していくことを期待する。 鑑賞事業については、鑑賞型事業では、主要事業である「センチュリー豊中名曲シリーズ」に加えて、市民ホール等が初めて企画制作した新作演劇作品「Play is Pray」を上演し、豊中独自のコンテンツの創出・発信を図った。	B

	評価項目	評価ポイント	所管部局コメント	評価
		「友の会事業」について、実施内容が仕様書・事業計画書に則し、創意工夫が見られるものであったか 「広報・宣伝事業」について、実施内容が仕様書・事業計画書に則し、創意工夫が見られるものであったか 「コミュニケーションロビーの運営」について、実施内容が仕様書・事業計画書に則し、創意工夫が見られるものであったか	貸館事業については、ほとんどの施設で平均利用率が年間を通じて高い水準を維持しており、中には過去最高の数値を記録したものもあった。ローズ文化ホールのみ再開館や休館の影響があり、前年度よりも平均利用率が下回る結果となったが、確保すべき水準を維持することができた。 情報提供事業について、館内チラシラックやSNS、YouTubeなどのデジタルツールを用いての情報提供等のほか、積極的にマスメディアに情報提供するなど、多様なメディアを活用した情報発信に努めた。 相談事業については、見学・相談会のほか、個別の見学にも可能な限り対応している。 友の会事業について、確保すべきサービス水準値を下回る結果となった。全国的に人気のある公演誘致に加え、継続的な入会キャンペーンの実施や店舗との連携による優待サービスの拡充に努めた結果、一定数会員数が増加しているが、引き続き入会状況は低調傾向にある。今後、抜本的な改善取り組みなど創意工夫に期待したい。 広報・宣伝事業については、施設ホームページや情報誌や施設パンフレットなどによる情報発信のほか、昨年から実施している公演アーカイブや京都芸術大学による効果測定調査を行うなど、随所で独自の創意工夫が見られた。 コミュニケーションロビーについては、前年度に続いて、市民の方の憩いの場となる安定した運営が継続されている。前年度に比べて、年間来客数、年間売り上げともに増加がみられた。また、子ども食堂での地域貢献や衛生管理面でもその管理に努めるなど、多角的な面から評価できるものであった。	
3	確保すべきサービス水準	文芸センター大ホールの年間平均利用率 (%) (年間利用率＝一年度分の利用日数／一年度間の利用可能日数×100) 文芸センター中ホールの年間平均利用率 (%) (年間利用率＝一年度分の利用日数／一年度間の利用可能日数×100)	最高評価サービス水準値；85% 確保すべきサービス水準値；70% 実績値；82.2% 確保すべきサービス水準値を達成することが出来た点を評価する。 最高評価サービス水準値；85% 確保すべきサービス水準値；70% 実績値；87.0% 最高評価サービス水準値を達成することが出来た点を評価する。	B

	評価項目	評価ポイント	所管部局コメント	評価
		文芸センター小ホールの間平均利用率 (%) (年間利用率＝一年度分の利用日数／一年度間の利用可能日数×100)	最高評価サービス水準値；85% 確保すべきサービス水準値；70% 実績値；98.4% 最高評価サービス水準値を達成することが出来た点を評価する。	
		ローズ文化ホールの間平均利用率 (%) (年間利用率＝一年度分の利用日数／一年度間の利用可能日数×100)	最高評価サービス水準値；75% 確保すべきサービス水準値；60% 実績値；64.1% 急な閉館期間の変更があったにもかかわらず、確保すべきサービス水準値を達成することが出来た点を評価する。	
		伝統芸能館の間平均利用率 (%) (年間利用率＝一年度分の利用日数／一年度間の利用可能日数×100)	最高評価サービス水準値；85% 確保すべきサービス水準値；70% 実績値；82.4% 確保すべきサービス水準値を達成することが出来た点を評価する。	
		市民ギャラリーの間平均利用率 (%) (年間利用率＝一年度分の利用日数／一年度間の利用可能日数×100)	最高評価サービス水準値；75% 確保すべきサービス水準値；60% 実績値；79.3% 最高評価サービス水準値を達成することが出来た点を評価する。	
		文化芸術センター展示室の間平均利用率 (%) (年間利用率＝一年度分の利用日数／一年度間の利用可能日数×100)	最高評価サービス水準値；75% 確保すべきサービス水準値；60% 実績値；80.5% 最高評価サービス水準値を達成することが出来た点を評価する。	
		文化芸術センター多目的室の間平均利用率 (%) (年間利用率＝一年度分の利用日数／一年度間の利用可能日数×100)	最高評価サービス水準値；75% 確保すべきサービス水準値；60% 実績値；89.6% 最高評価サービス水準値を達成することが出来た点を評価する。	

	評価項目	評価ポイント	所管部局コメント	評価
		文芸センター、ローズ文化ホールの年間来場者数合計（人）	最高評価サービス水準値；500,000 人 確保すべきサービス水準値；410,000 人 実績値；500,240 人 最高評価サービス水準値を達成することが出来た点を評価する。	
		4 ホール（文芸センター大ホール、中ホール、小ホール、ローズ文化ホール）で実施する事業の1事業あたりの平均参加率（参加率＝1事業の来場者数（チケット販売数）/ホールの客席×100）	最高評価サービス水準値；75% 確保すべきサービス水準値；50% 実績値；58.7% 確保すべきサービス水準値を達成することが出来た点を評価する。	
		友の会の会員数	最高評価サービス水準値；1,500 人 確保すべきサービス水準値；1,000 人 実績値；838 人 確保すべきサービス水準値を下回る結果となった。	
4	施設効用の発揮	当該施設の管理運営を担うのに相応しい人員を配置し、職員の質の向上を図る方針や計画を遂行しているか 安心安全な維持管理、公平公正な使用承認の判断といった施設運営等、管理運営が適切に行えているか	市と連携した事業展開を行うなど、市政運営の一翼を担っている。 期中に総合館長（文化芸術センター総合プロデューサー）の交代が行われたが、十分な引き継ぎ期間を設けられるとともに、クラシック音楽をはじめ文化芸術の豊富な知見と高い専門性を有する人材が配置されることで、運営体制のさらなる強化につながったと考えられる。 施設の維持管理・運営については、設備の不具合案件など施設の現状を報告するだけでなく、優先順位を明確にして、可能な範囲で適宜機器交換及び工事を実施した。	B
5	財務健全性	貸借対照表は健全か 損益計算書は健全か 資金保有（期末残高）は健全か （当該事業の）収支状況・収支計画は適切か	1社について受注損失及び当該損失の影響と思われる貸倒を引当てされており、影響が全て織り込み済みであるのか気がかりではあるが、強固な財務基盤に支えられ、他の2社を含めて3社ともに財政状況は良好で、経営の安全性を欠くような所見までは認められない。	B

	評価項目	評価ポイント	所管部局コメント	評価
6	市民満足度への配慮	利用者への接客対応は適切か。また、サービスの向上が図られているか	利用者アンケートで、施設利用満足度における職員の対応の項目で、満足とやや満足を合わせると、文化芸術センターは91.6%（前年度92.1%、前々年度89.7%）、ローズ文化ホールは88.1%（前年度89.3%、前々年度86.5%）、伝統芸能館95.3%（前年度80.0%、前々年度87.2%）、市民ギャラリー94.3%（前年度91.4%、前々年度100%）となっており、各施設ともに高評価となっている。	B
		地域の市民や団体、近隣公共施設等と連携（協働）し、施設の効用を発揮させているか		
7	従業者への配慮	福利厚生や労働安全衛生に係る制度が充実しているか	概ね良好である。 ただし、労働基準法上の義務に鑑み、労働時間の管理が不十分な点につき改善を求める。	B
		勤務時間、休暇制度等が法令に適合するとともに、職員の健康や仕事と生活の調和に配慮したものになっているか		
		その他、労働関係法令を遵守しているか		
8	危機管理体制	情報管理・個人情報の保護の重要性について理解し、個人情報の漏えい、不正利用を防止するために整えた体制が堅固であるか	職員へ個人情報保護などについて、オンライン研修やテストを実施するなどしている。	B
		緊急事態発生等への危機管理に対する体制が堅固であるか。また、防災訓練の実施内容がさまざまな事象を想定した実践的なものであったか	定期的な防災訓練や危機管理勉強会を行うなど、緊急事態発生に備えて準備ができており、特に大きな事故なく運営されている。	
9	その他	「自由提案」とした事業を事業計画書に則し、積極的に実施したか、また事業内容が施設の設置目的を踏まえた創意工夫が見られたか	とよなか ARTS ワゴンを中心とした小学校へのアウトリーチに特に力を入れており、市内小学校11校で全91回実施した。 また、鑑賞型事業においては、「センチュリー豊中名曲シリーズ」などの既存事業を実施しただけでなく、市民ホール等が初めて企画制作した新作演劇作品「Play is Pray」を上演した点においては、豊中独自のコンテンツの創出・発信を図ることとして、今後のさらなる成果に期待したい。	B

	評価項目	評価ポイント	所管部局コメント	評価
		総合評価	令和5年度は、新型コロナウイルス感染症の位置づけが変わり、5類感染症となったこともあり、以前に比べて事業展開しやすく、かつ利用者が戻ってきた印象がある。 その中で、地域における創造的かつ文化的な表現活動のための環境づくりに特に功績のあった公立文化施設を顕彰する『地域創造大賞（総務大臣賞）』を受賞したことは大きく評価したい。豊中ならではの「とよなか ARTS ワゴン」におけるアウトリーチなど、文化芸術事業の取り組みにおける成果として現れた結果と言えるであろう。 貸館においても、利用率が高い水準で推移しており、安定的な運営ができているだけでなく、過去最高水準を記録した貸館があったことも非常に良かった。 一方で、友の会事業は昨年度からほとんど変わらない数字となり、課題が残る結果となった。今後のあり方について検討していく必要がある。 今後は、従業者への配慮の点で懸念はあるが、改善に期待しつつ、創意工夫と緊張感のある運営を実施していただきたい。	B

(評価の基準)

- A ; 優れた管理運営状況である
 B ; 問題のない管理運営状況である
 C ; 改善を要する管理運営状況である